

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルデーテ		
事業所名	グループホーム よろこび(A棟)		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和3年8月20日	評価結果市町村受理日	令和3年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の広報誌や地元の職員、家族を通じて、多くの地域の皆様に「グループホームよろこび」を知っていただけていると職員一同とても嬉しく感謝しています。
 防災に関しては、町の危機管理監のご指導ご協力のもと、防災士の資格取得に力を入れ、現在は3人が防災士として、施設の防災担当を中心に、火災、災害訓練、非常食の管理等に意欲的に取り組んでいます。
 令和4年春、開設5年目を迎えるにあたり、ますます多くの地域の方々やご家族が気軽に足を運んでいただけるような「家庭的な雰囲気」であふれている「グループホームよろこび」を目指していきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は隣県にあるが、本県でショートステイも運営しており、代表者は頻りに顔を出してくれる。周囲を山の緑に囲まれた自然豊かな地域に位置し、2ユニットで開設以来4年を経過した。災害時の避難場所に指定されており、地域にも馴染みの存在になっている。利用者の娘世代に当たる年代の女性職員が多く、利用者との間に家族的な雰囲気の関係ができていく。まだまだ元気な利用者が多く、興味のあること、やれること、やってみたいことなどを一緒に考え、提供しながら笑顔で日々を過ごしていけるよう支援に努めている。理念の一つに「家族や地域との結びつきを大切に、開かれたホームづくりに努める」ことを掲げており、2年前に、敷地内に「めぐもりホーム」の名称で宿泊機能を備えた集会場を設置した。普段はホームの会議等に使用しているが、災害時の避難拠点としての機能も持たせるなど、アフターコロナには、地域との繋がりを拓くために活用したいとしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた「家庭的な雰囲気を大切に、穏やかにその人らしい毎日を笑顔で暮らせるように」「地域との結びつきを大切に」の理念を共有して、支援に努めている。	開設時に設定した理念は、スタッフから提案してもらい、話し合いのうえ決定した。利用者が「その人らしい毎日を笑顔で過ごしてもらおう」よう、一人一人のケアプランに好きなこと、やりたいこと、やれそうなことを位置付け、取り組みを支援することで理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で難しくなっているが、地域の方が担当している訪問販売や商店での買い物、馴染みの美容院に散髪を頼むなど交流している。施設広報は地域の班に配布している。	コロナ禍でお祭り等地域行事が自粛され、地域婦人会の踊りのボランティア訪問も途絶えている。月1回の近隣二つの商店への買物、週1回の乳酸品訪問販売、3ヵ月毎の美容師の来所が、外部との交流の機会となっている。年3回程度、施設紹介の広報紙を地域に配布している。近隣からの野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例を報告し、認知症に対する関わり方を説明し理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、行政、地域の方々に状況説明や報告を行い、意見や提案をいただきサービスに活かしている。(コロナ禍でさらに家族の参加はなくなっている。)	昨年度から会議形式での運営推進会議は開催していない。2ヵ月毎に運営状況、行事の様子、利用者の暮らしぶりなどはお知らせしているが、特に意見や提言は求めている。	ホームからの一方的な報告になっており、話題性のあること、課題になっていることなど、ここ1年のホームの運営状況をまとめ、委員の皆さんに送付し、意見や提言をいただく「書面会議」を早急に開催することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	顔の見える関係づくりを目指し、介護や入所者の問題、申請等で問題が生じた時には相談し協力関係を築くことができている。	難しい事例や制度上の手続きは、地域包括支援センターや町担当課と連携し、適切に対応出来ており、行政との関係は円滑である。管理者が町の介護保険評議委員会の委員に就いている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入社員研修含め、施設内研修を行い、身体拘束とはどんなことなのか、拘束をすることによって生じる弊害等を学んでいる。	両棟2名ずつで構成する「身体拘束適正化委員会」を3か月毎に開催し、身体的拘束や行動制限の事例を確認し、ホームで発生しないよう話し合っている。適正化に向けた基本的考え方や対応の方針を指針にまとめ、ユニット会議に合わせ、定期的に職員全員で研修を行っている。スピーチロック等、不適切な言動があった場合は各ユニットの管理者がその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で、介護する側の言動から起こる精神的な虐待について、ユニット会議等で話し合い、職員一人ひとりがしっかりと意識していくことで防止できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加が出来ていないため、施設内研修でできればと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、家族の疑問点をしっかり伺い、理解してもらうよう努めている、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際等に意見、要望を伺ったり、家族が来所の時や電話で気兼ねなく話してもらったことをユニット会議や管理者会議に取り上げ運営に反映するようにしている。(誕生日に洋服を買ってほしい、買い物させて欲しい等)	家族の面会は玄関先だけに制限している。毎月請求書を送付する際、行事等でのスナップ写真にコメントを加え、同封している。家族の半数は遠隔地居住のため、電話で要望や意見を確認しているが、運営に対する要望等はない。広報紙は年3回の季刊発行になっている。	コロナ禍の上、遠隔地の家族が多いことから、コメント内容を拡げ、本人の暮らしぶりや健康状態などをお便りの形で伝えるとともに、意見や要望を確認することが望まれます。

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月にユニット会議で出された意見、提案、要望を管理者会議で取り上げ、決定事項は職員に文書で報告している。	月1回のユニット会議は、職員会議、カンファレンス会議、研修を兼ねて開催されている。この会議で職員からの意見や要望が出され、代表者と両ユニットの管理者による「管理者会議」に持ち上げられ、運営に反映されている。ウッドデッキの設置要望があり、本年8月に両ユニットで実現された。本年度から職員一人一人が目標を決めて取り組む目標管理の手法を取り入れ、両管理者の個人面談により取り組みに助言するとともに、仕事に対する本人の思いや意向も確認しながら職員育成や職場環境の改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりに目標を掲げてもらい、定期的に面談し、本人の向上心や仕事上での不安等を聞き、環境、条件の整備に努めている。(管理者、棟管理者も目標の確認をして管理者会議で話し合っている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップを目指す職員に対しての支援があることを職員に通知している。相談は随時行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流が出来ていないのが現状だが、他施設との交流は職員の意識、サービスの向上にもつながり、介護現場の見直しや改善にもつながり必要であるため、計画していく予定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションをとる中で知り得た情報等を職員間で共有し、少しでも早く環境に慣れてもらい、職員との信頼関係が築けるように努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階から、家族の抱えている不安や要望を聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態を確認し、いちばん必要な事はないかを職員間で話し合い支援していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切にして家族の一員と提供いただけるよう、毎日の声かけや傾聴を心がけ、家庭的な雰囲気を感じてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住んでいる家族には写真と現在の状況等を書いて郵送したり、相談や連絡はその都度行い、手紙や電話で話したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域の美容院やスーパーに出かけたり、散歩して知人に会って話すこともある。	知人、友人等昔からの馴染みの人との交流は少ない。美容院で3か月に1回髪の手入れをお願いし、お馴染みさんになっている。散歩やスーパーの買物で知人に会うこともある。ドライブの際には、自宅近辺など馴染みの場所を回ったりしている。ユニット間の合同行事は控えているが、利用者同士が馴染みとなっており、行ったり来たりとの交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域の人が集まり会話を楽しんだり、麻雀をしたり隣の棟でおやつをいただいたりして交流している。名前は忘れても顔を覚えていることもあり、利用者同士楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で現状や相談の支援に努めている。		

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で要望を聞き取り、行事等に組み込んだり、個々で考えたり、本人の希望に沿えるよう努めている。	大半の利用者が自分の思いや気持ちを表現できるが、全体として周囲の雰囲気や他の人に合わせて動く人が多く、職員は一人一人が興味のあること、やってみたいことに自分から取り組んでもらえるよう働きかけや雰囲気づくりを行っている。	入所当初は張り切って自分の趣味(編物、裁縫、踊り、歌等)に取り組んでいても、次第に周りの雰囲気や目を気にし、消極的になってしまう人が少なくなるとのこと。職員も一緒に取り組むことで再びやる気生まれてくれるよう、働きかけの工夫が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の居室に自宅から持参したアルバムや、位牌、長く使用しているシルバーカー等、本人が安心できる物や、趣味の編み物道具を置いたり、個々のこれまでの生活環境を大切にできるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が毎日の変化を職員間で共有し、今できることを継続していけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状態が大きく変化した場合、介護保険の更新時、短期目標でモニタリングを行い計画作成に反映している。家族に意向確認や計画書を確認してもらっている。	ユニット毎に担当職員等のモニタリングをもとに毎月のユニット会議でカンファレンスを行っている。通常は、プラン設定期間(3か月、6か月)毎に計画作成担当者が職員の意見やアイデア、家族の意向等も入れながら、ケアプランを見直している。昨年、施設内に畑を整備した際、利用者の役割分担(植え付け、草取り、収穫等)をケアプランに入れることで新鮮味のあるプランになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況の変化やトラブルをわかりやすく記録し、職員間で話し合い課題抽出し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は訪問診療で行っているが、緊急受診の際に、地域の高齢家族を迎えに行き同行してもらう、家族の受診に同行する等、柔軟に対応している。(遠方に家族がいる場合は、電話で連絡相談し、入退院手続き等にも対応している。)		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、行政、他施設との連携と地域のボランティア団体の方々の来訪等、本人が安全と楽しみを持って暮らせるよう支援している。(踊りのボランティアは現在コロナ禍のため休止している)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが訪問診療で対応できているが、専門医や家族の希望の病院がある場合は、本人、家族の意向に沿ってかかりつけ医の受診ができるよう支援している。	本年度から、毎月、協力病院の内科医による訪問診療が始まり、大半の利用者が通院せずに3か月毎に定期受診できるようになり、職員の負担も軽くなった。家族の希望で入居前からのかかりつけ医に通院する利用者が2名いる。眼科、歯科は近くの専門医に通院している。週1回来所の訪問看護ステーションの看護師から利用者の健康の維持管理に助言や支援をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護ステーションのオンコールサービス、週1回の看護師の訪問で常に連絡相談を行い、利用者が安心して健康維持ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人の入院時及び、退院後の受け入れ状況等を常に看護師、相談員と相談できる関係づくりを行っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、重度化した場合、事業所としてできることを理解いただくよう説明している。重度化した場合は、家族に特養施設に申し込みいただき、他施設等への情報提供を行い協力、相談をお願いし、家族には相談支援を行っている。	利用開始時に重度化、看取りに対するホームの考え方を利用者や家族に説明しており、重度化については、入浴等施設設備で対応できる介護が難しくなった段階や医療行為が必要になった時点で特養や病院への移転について相談、協力させてもらうこと、看取りは医療連携体制が整っていないため出来ないことを理解いただいている。介護度3になった段階で特養施設への入所申請手続きを勧めるようにしている。現時点では、対象になる利用者はいないが、今後、重度化や終末期に対して、ホームとしてどこまで支えて行けるか、対応のあり方を職員間で話し合っていくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練をコロナ禍で行なうことができていないため、施設内研修として、物を詰まらせた場合の応急処置の研修を行った。救急要請の手順は各棟の職員の机の近くの壁にかけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な施設内避難訓練、地域での合同避難訓練説明会に参加し、毎年参加している。	春秋2回の火災避難訓練を実施している。夜間の避難訓練は、昨年春に16時から実施し、今年9月に町の合同避難訓練に参加した際にも実施した。ホームは、近くの小本川、三田貝川の増水時の避難施設に指定されており、コロナ禍で協議が進んでいないが、自治会との防災協力協定など、災害に対する地域との連携、協力関係を築きたいとしている。職員3名が防災士の資格を持ち、ホームの防災対策や避難訓練の先頭に立っている。食料3日分、水、灯油ストーブ、カセットコンロ、携帯トイレ等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの心身状態に合わせた声かけで、自然に笑顔になれる様努めている。ユニット会議で一人ひとりの関わり方を話し合い職員で共有している。	利用者の娘世代に当たる女性職員が多く、親子のような関係の中で、一人一人に寄り添っている。職員は自分が嫌なことは利用者も同じという気持ちで接している。親しさの中でも、誇りを傷つける言い方にならないよう注意している。日々の生活上の役割を提供しながら、やれること、やりたいことを自分で決めて取り組んでもらうよう支援している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にその都度確認を行い、意思を尊重し、無理強いしたり、否定したりしないよう注意し、本人が自己決定しやすいような声かけをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつなどの時間がずれてしまった場合は、本人が周囲の人に指摘されることがないように食席を移して食べていただくなど工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服装やヘアスタイル等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園の野菜の水やり、草取り、収穫を職員と行い、季節を感じられるような行事食を楽しめるようにしている。食器拭きやお盆拭き、洗濯干しや畳み方等、毎日役割を持って参加している。	あらかじめ献立は作成せず、ユニット毎に、その日の当番(昼食は早番、夕食は遅番、朝食は夜勤者)が、冷蔵庫の食材をもとに利用者と相談しながら調理している。食材は3、4日分を生協に配達してもらう。山菜、キノコ等季節のものは利用者に調理の方法を教えることも多い。自家菜園の野菜も食卓を飾る。食事介助を必要とする人は1名のみで、毎食、職員が数名加わり、和やかな食事になっており、後片付けも皆で協力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は一人ひとり記録し、水分が不十分な時には看護師のアドバイスや職員で考え、ゼリーを作って食事の際に副食と一緒に配膳したり、持病や好みを考えながら摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	心身状態に合わせた声かけや見守り、介助をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄習慣に合わせた声かけや、衛生材料の種類の変更の必要性について話し合い支援している。	日中は、チェック表で排泄パターンを確認しながら、声かけ誘導している。1人を除き、リハビリパンツにパットを使用している。車椅子利用のため、全介助を要する人が両ユニットに1人ずついる。布パンツに改善可能性のある人もおり、職員の支援に力が入る。夜間は、殆どの方が自分で起きてトイレに立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合わせた水分摂取方法や運動を職員で話し合い実施し、困難な時には、看護師、医師、薬剤師に相談し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある方への声かけ、身体状況に合わせた入浴方法を話し合い、本人が楽しめるように、個々に沿った支援に努めている。	入浴は個浴で、原則週2回、午前中の中の入浴になっている。背中など本人の手が届かない部分の洗いを手伝っている。異性介助の拒否もなく、昔語りや歌を披露したりしながら、リラックスして入浴している。温泉気分を味わってもらうため、冬季には入浴剤の購入を予定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しでも明かりがあると眠れない、さみしい等の声を聞き、部屋の小窓にを覆ったり、居室のドアを少し開けておく等、本人が安心できるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の把握、臨時薬の内容確認を行い、通院記録、申し送り、看護師の連絡ファイルで確認し情報共有している。疑問なことは薬剤師へ直接連絡相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日の方には食べたい物の希望を聞いたり、ドライブに行きたいか聞いて取り入れるようにしている。アルコールを希望の方にはイベントの時にノンアルコールビールで楽しんでもらう、麻雀好きな方には職員が時間外でも一緒に参加し、ともに気分転換をしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物してきてほしい。買い物に行きたい等の要望で自分の服を選んで購入したり、誰もいなくなった自分の家を見に出かけ、偶然妹さんと会い、会話をして庭に咲いていた花をいただきとても喜ばれていた。季節にもよるが月2回のドライブを計画している。	コロナ禍で思うように外出できないが、意識的に外気に接するようにしており、玄関先やデッキで日向ぼっこをしながら談笑したり、敷地内の散歩や畑の草取りなどを行っている。お花見や紅葉狩りの他、月1、2回30分程度のドライブに出かけ、車窓から景色を楽しんでいる。地域の小学校や保育園との交流の回復を目指している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて少額を渡している。近所の商店やドライブ先での買い物や、週に一度来る馴染みの訪問販売も楽しみにしている。毎月家族へ小遣いの領収書と明細、残高を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚に電話したり、顔の見える電話で孫と話したり、手紙がくることもあり、その中に返信用の便箋と封筒を入っている時には、本人に書いてもらい返信している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を飾る。外が眺められるように玄関先に椅子を置き会話を楽しみながらゆったり過ごせるように工夫したり、玄関を出なくても外の空気に触れられるようデッキを設置している。洗濯物も干せるため何人かで一緒に干したり、乾いたか確認しとりこんで何人かでたたんでいる。音楽好きの方のためにデッキで音楽を流したりしている。	玄関、事務室を挟んで左右にユニットが分かれ、居室はユニット毎に多少位置は異なるが、ホールから全室の出入りが見渡せる配置になっている。両ユニットとも壁の色はクリーム系で落ち着いた雰囲気のホールになっている。3卓の食卓は、遮るものなくテレビを観られるように配置されている。暖房はエアコンを使用している。今年新設したウッドデッキは、ベンチを出して日向ぼっこをしたり、洗濯物を干したり、大いに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼食後はホールの明かりを抑え、テレビも消す時間になっている。少しでも居室に戻り、静かな時間を過ごせるよう声がけしている。ホールで過ごしたい方は本を見たり、職員とパズルをしたり静かに過ごしている。車いすを自走され外を眺める方もいる。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム よろこび(A棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	家族に聞きながら、本人の思いに沿った物を置く ようにしている。お位牌や家族写真を飾っている 方もいる。ベッドの配置や衣類の整理は本人に 確認しながら職員間で話し合い、担当職員が中 心となって行っている。	ベッド、チェスト、洗面台が備え付けになってい る。クローゼットがなく、衣装ケースやハンガー ラックに衣装類を整理している。ベッド等のレイア ウトは、本人の希望に沿っている。お位牌を挿ん でいる利用者も5人程おり、思い出の品に囲ま れ、落ち着いて過ごすことのできる居室になって いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設内の廊下や浴室には手すりが設置してあ り、居室は身体状況に合った安全な配置を考 えている。		